



スーパー グローバル ハイスクール

# 佐高 SGH通信 2019

No. 22 (2019年10月3日発行)

佐高 SGH ファイル

## 高1CTP 日本語ディベート 第2回、第3回

高1CTP日本語ディベート第1回に続いて、9月12日(木)、26日(木)の6限に、第2回、第3回が行われました。今回のディベートも充実したものとなりました。クラス横断型4人グループにもかかわらず、チームワークがとても良い班もありました。今回も振り返りを紹介したいと思います。

### 第2回 論題「クローン人間は禁止すべきだ」

私は、クローン人間は禁止すべきではないと思う。理由としては以下の二つだ。一つ目は、現状の禁止されている理由に疑問が多く浮かぶからだ。現状の生命倫理に関する問題点は大きく二つ存在しており、それは「同一個体の存在による個人の尊重・尊厳の侵害」と「生命の誕生は偶然の介在による自然的なものであるべき」というものだが、一つ目に関しては、同遺伝子ということと同一個体はイコールでは結ばれない。二つ目に関しては、体外受精などの生殖補助医療が人為的であるものから、クローン人間だけを禁止する理由にはならない。二つ目は、子どもができない人にとって良い、というものだ。科学技術が進歩すれば、不妊症の人やLGBTの同性カップルが不妊治療のようにデメリットなく、彼らの望みが叶う。このように大きなメリットがありつつ、現状禁止している理由が曖昧なので、私はクローン人間を禁止すべきではないと考える。  
1年2組 新井優平さん

私はクローン人間は禁止すべきではないと思います。理由は2つあります。一つ目は、子どもがほしくても授かることのできない人がたくさんいるからです。例えばLGBTの人です。彼らはもちろん、子どもを授かることができません。授かるためには、第三者の遺伝子を使用したり、体外受精をする必要があります。そのため、2人の間に子どもができたとは言いがたいし、体外受精を好まない人もいます。確かに、クローン人間は危険性があります。しかし、他の受精方法にも危険性があります。クローン人間だけの問題ではありません。二つ目は、個人の自由と責任だからです。一つ目にもある通り、使い方を間違えなければ、人のためになります。そして、禁止にする必要はありません。危険に感じたり、恐怖心がある人は使用しないという選択肢があります。使用したい人は、もしものことがあった場合は自己責任になります。禁止にすべき明確な理由がありません。また、クローン人間は、同一の人物になるわけではないと思います。生きた年数、体験したこと、環境など全てが異なります。だから、クローン人間が道具化することはないと思います。これらのことから、クローン人間は禁止すべきではないと思います。  
1年2組 長谷川愛彩さん

この論題はディベート全体の中でもかなり難しい論題のように思う。私が禁止すべきか否か1番迷う理由の1つに、作ったクローンを別の人間として扱うのか、それとも本体の分身として扱うのか、どちらにも納得できる場所がある上に、実際にクローンを作ることに成功した事例が少なく、情報の信憑性に欠ける場所があるということだ。私はクローンを作ったことがあるわけでもないし、今の世の中にクローンが存在しているわけでもないのだから、クローンを作った先のことは想像上でしか語るができない。かなりのリスクがあるクローン人間の製作を、全面的に肯定するには大きな勇気がいるため、肯定はしづらい。よって、私はクローン人間に否定的である、というのが今の私の意見だ。  
1年4組 佐藤捺美さん

クローン人間は禁止すべきであると思う。現在クローン技術は実験段階のため、悪用する人間がいない。しかし、このままクローン技術を発展させて一般化すれば、悪用する人が出てくる。例えばブラックマーケット。高値で人身売買がなされるかもしれない。例えば戦争。クローン人間の人権が無視され、集中的に兵士にさせられるかもしれない。私は「クローン人間にも母体と同じ人権がある」と考えている。しかし実際、クローンは母体よりも軽視されている。もしこの価値観のまま、クローン技術が発達すれば、クローン人間

は「物」として扱われるのではないか。少なくともその可能性が一抹でもあるなら、禁止する方が良いと考える。

1年4組 川俣蒼生さん

### 第3回 「方言は生き残るべきだ」

私は、方言は生き残るべきだと主張する。方言は地域それぞれの文化である。地域それぞれの特色が言葉となって表れるのだから、言葉を大いに大事にしている人間にとって、大事な特徴となるからだ。事実、方言を大事にしている地方の人はたくさん見かける。なぜ大事にするのだろうか。それは、その人たち自身が方言を自分たち独自の文化として誇りに思っているからではないだろうか。言葉は生まれてから成長する過程で、自分で使いながら身につけていくものだ。成長してから習得することもできるが、きっと成長の過程で身につけていく方がより自然なものとなる。従って、地方で生まれ育った人ではないと習得できない独自のものなのだ。では、なぜ地域でそれぞれ特徴があることが大事なのか。もし、日本全土でどこも同じで、特徴がなかったらどうなるのだろうか。人々は、常に自分と違うものに興味をもつ。だからこそ、同じ日本でもそれぞれの特色の見聞を求めている。だから観光が成り立つのである。つまり、人は「特徴」に興味を持ち重んじているのだ。このことから、私は方言はなくすべきではないと強く主張する。

1年3組 内田小温さん

私は方言は生き残るべきではないと強く信じます。私がそう思う理由は主に2つあり、1つは、いじめの原因となってしまふからです。以前、新聞やニュースで報道されていましたが、奄美の中学生が方言を勘違いされいじめに発展し、自殺したという痛ましい事件が起きました。また、主ないじめの原因の1つに、「自分と違うものを排除したい」というものがあり、周りの心理的状态から、話す言葉が異なるだけでいじめにつながってしまうのです。もう1つの理由は、意思疎通が難しいからです。方言は各地でとても大きな差があります。昔の日本は地域ごとに統治されていたので問題はなかったのですが、今の日本では問題が発生します。例えば、東日本大震災のとき、医師と患者が対一となり治療を行おうとするも、方言が分からず病状が把握できなかったため、適切な処置ができなかったということが起きました。日本は災害の多い国で、このようなことがこれからも起こってしまうというのは、とても深刻な問題です。だから私は、いじめの原因となり、意思疎通を困難にし、最悪の場合命まで奪ってしまう方言は生き残るべきではないと強く信じます。

1年3組 川上陽菜乃さん

私は方言は生き残るべきであると考えます。理由は2つある。1つ目は「方言は一つの文化だから」だ。日本には全国各地に多くの方言が存在するが、似たような方言はあっても全く同じものはない。それはその地域の風土に深く根差しているからである。それぞれの方言が地域独自の個性を持っており、昔から伝承されてきたものであるために方言は文化といえる。方言をなくして標準語に統一してしまうと多くの文化が失われるとともに言葉から地域性を読み取ることもできなくなってしまう。地域らしさを表現できるツールとしての役割も方言には存在すると思う。2つ目は「地域内での意思疎通が難しくなるから」だ。方言は使用されている地域内では一般的な言語となっており、細かなニュアンスの違いも表現できる方言は多用されている。方言ではよい意味で捉えられる言葉も標準語では悪い意味で使われる言葉もあり、標準語に統一することが必ずしも良いとは言えないと考える。

1年1組 津久井友貴さん

私は方言は生き残るべきではないと思う。理由は2つある。1つ目はいじめの原因になるからだ。2015年11月奄美の中学1年生が発した方言が悪口と勘違いされた。いじめと思った担任はその子に指導し、最終的に思いつめたその生徒は自殺した。(朝日新聞)このように方言は自殺にまで発展してしまう原因になっている。新社会人が上司から方言を直すように言われたが、なかなか直すことができずパワハラに発展した。(JCAST)方言に関することは社会人になってからも起こりえる。PCで調べた結果、方言についていじめを受けてつらいという相談もたくさんあった。方言が生き残らなければ、このようないじめは減り、これらにつながる自殺も減らすことができる。命に代わるものはない。2つ目は、意思疎通を困難にしてしまう場合がある。…以上のことから方言は生き残るべきではないと主張する。(2つ目の論を省略しましたが、とても説得力があるものでした。)

1年1組 木村真歩さん

